

西武狭山台ハイツ自治会

私たち西武狭山台ハイツ自治会は、狭山台地区の西側に位置し、現在600世帯で組織されています。ハイツ内の夜間パトロールや放置自転車の回収、自治会レターの発行など、安全で住みやすい生活環境づくりをモットーに活動しています。

また、夏祭り、地区運動会、初笑いなど、さまざまな行事を通じて会員相互の親睦を図っています。

昨年度から始めた「初笑い」では、笑う門には福来るとなるように、マジックサークルの楽しいマジックやプロの一人芝居を招いて、大いに笑っていただきながら交流を深めることができました。



わかるかな？ 今月の写真クイズ

写真は、今月の広報さやまに掲載してある写真の一部を拡大したものです。何ページの何の写真でしょうか？

解答をお寄せいただいた正解者の中から、抽選で5名に記念品を差し上げます。官製はがきで広報課宛お送りください。
締め切り4月30日(当日消印有効)



3月10日号の答え

表紙のこどもクッキー教室で天板に並べられた焼き上げる前のクッキーの写真でした。



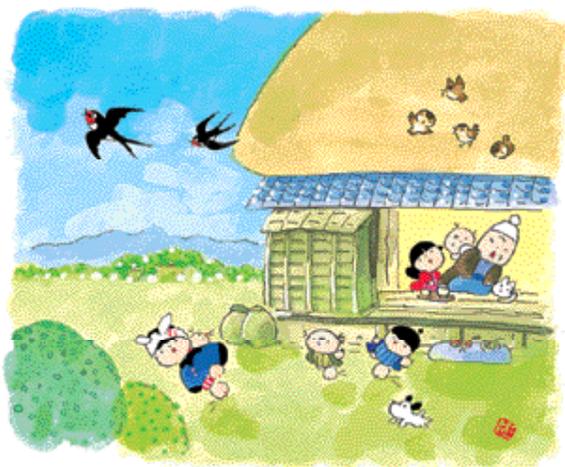
表紙の写真

3月下旬から咲き始めた桜は、4月に入って満開となり、市内のいたるところで美しい花を楽しむことができました。暖かな3月28日の狭山稲荷山公園は、家族連れや友だち同士など多くの方が訪れ、大変な賑わいをみせました。また、夜間開園では桜がライトアップされ、夜空に幻想的な景色を映し出しました。

池原 昭治の

さやまの尔会本

第107話



動物にまつわる昔話 その1

狭山市で語られた動物を題材にした貴重な昔話を紹介します。

ツバクロとスズメ

「昔ねえ、ツバクロ(燕)とスズメ(雀)がどうして今みたいな巣をつくるようになったか、私が小さいころに聞いたお話。ツバクロが泥で巣をつくるのは、ツバクロはたいへんおしゃれでねえ、紅をつけたり、

頭の毛を黒く染めたりして、自分のことにいそがしかったので、親の死に目にあえなかつたんだって。それでねえ、罰のため、つめたい泥で巣をつくらねばならなくなつたんだって。反対に、スズメはねえ、いつもボロ(みす)ばらしいの着物を着ていたけれど、まじめで、それはそれは働き者だったので親の死に目にあえたんだけ。そんなわけで綿とか藁とか、やわらかいもので、あつたかい巣をつくるよつになつたんだってさ。」

このお話は、奥富の前田に生まれ、大芦に嫁がれた生粹の狭山っ子の故・佐藤つるさゝ(明治二十年生まれ)が生前に語られた、めずらしい本格的な昔話です。これは「雀孝行」といわれる、全国的に分布している動物を題材にした昔話のひとつです。同じような昔話が、人間市では「つばめ孝行」戸田市では「雀孝行」として記録されています。



広報さやま Vol.585 発行日・平成16年4月10日 発行・狭山市 編集・狭山市総合政策部広報課
〒33501380 埼玉県狭山市人間川1-23-5 0429531111 0429546262
公式ホームページ http://www.city.sayama.saitama.jp/ モバイル http://www.city.sayama.saitama.jp/mobile/